
温かい風に包まれて

新品の靴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

温かい風に包まれて

【Nコード】

N1918N

【作者名】

新品の靴

【あらすじ】

暖かい風が君をやさしく包み込む。

暖かい風が君をやさしく包み込む。

前を歩く君は髪をたなびかせながらどんどん先に行く。

目の前に広がる草原と青い空。

大きな入道雲が空高くそびえたつ。

「ほら、はやくはやく!」

そう言って彼女はどんどん先を進んでいく。

ああ・・・なんて心地いいんだろう。

こういう「えいえん」もあるのか・・・

二人揃って草原に寝転ぶ。

時間が。

止まって欲しい。

こんな幸せな時間を

いつまでも噛みしめていたい。

「ふふふ・・・」

「くくつ・・・はははははははは」

幸せがこぼれすぎて笑いがこみあげてくる。

僕。

彼女。

守られた、包まれた世界。

風にたなびく草が僕たちをくすぐる。

「ねーえ……」

$$\begin{array}{c} \neg \\ h \\ | \\ ? \\ \bot \end{array}$$

「大好き」

「僕も」

「い、い、い、つ、
・
・
」

「くっくく……はははははははは」

「ねえ・・・」

見ると、彼女が泣いている。

「これで、これで幸せな時間は壊れない……よ……ね？」

彼女は昔から、自分の大切なものを壊してしまう癖があった。大切な人形もはさみでスタスタにしたし、かわいい服もわざと汚した。

精巧につくられたオルゴールもめちゃくちゃに壊したし、とにかく大切な物を壊した。

怖かったんだ。壊れてしまうのが。いつ壊れるかもしれない不安定な世界がとても怖かったんだ。

だから彼女は自分で物を壊す。大切なものほどより安定した状態―再生不可能な崩壊―

へと導く。そうして彼女はやっと、いつ壊れるかもしれない不安から解放され、その大切な物を永遠に自分の物にできるのだ。

彼女の両親が突如としていなくなった頃からこの行動は始まった。

幸せがある日突然終わる恐怖。

その恐怖を二度と味わいたくないが為に彼女は物を壊す。

それは仕方がないことだ。脆く壊れやすい彼女の唯一の防衛手段なんだから

しかし周りのやつらはなんにも知らない。知ろうともしない。僕がどれだけ言っても聞く耳を持たず、容赦なく彼女を攻撃する。

どうして物を壊すんだ。どうして友達を傷つけるんだ。あんなに親しかったのに。君は間違ってる。君は異常だ。今すぐそんなことやめなさい。お前あたまあかしいんじゃないの？

僕は知っている。

僕だけがそのことを知っている。

周りがどんな目で彼女を見ようと僕だけがちゃんと分かっている。

だから、

だから、僕を壊そうとしたのも当然なんだ。

僕の胸に包丁を突き刺したのも、当たり前のことなんだ。

僕を大切にしてくれていることの証。

「分かってるよ。分かってる。」

そう言っ僕は彼女をやさしく抱きしめる。

「ご……ごめんなさ……ごめんなさい……！」

僕の胸から血が溢れだす。

ああ……君と話せるのもあと少しか……

「わ……わた、わたし……どうしよ……どうしよう……」

「大丈夫。落ち着いて。これで僕が壊れることはもうないから。」

「永遠に、この時間を、この幸せを、閉じ込めることができたんだ

よ？大丈夫。これでずっと君と一緒にいられる」

君の涙は温かいね・・・

「私・・・私、ずっとわかってた。何かが違うって。物を壊すたびに、なにか引つかかったの・・・。何かが違うって、このままだと大変なことになるって・・・。でも、でも、あなたという時があまりにも幸せで・・・幸せで幸せで幸せすぎて、だんだん怖くなつて・・・。」

「また壊れたらどうしよう、って。」

「分かってるよ。分かってる。ちゃんと分かってる。」

僕はありつただけの憎しみを彼女の親にぶつけたい。
よくも彼女を。

「逃げるんだ。」

「え・・・？」

「見つかったらまずい。周りのみんなは君をさんざんに言うだろうからね。いままでもそうだっただろう？」

「でも、わたし・・・」

「君は間違っていないよ。当然のことをしたんだ。これで君と僕は永遠だ。だからどこへいっても大丈夫。だからもう逃げるんだ。遠く、君のことなんか誰も知らない遥か遠くへ。」

「行け。」

わあああああああああああああああああああああああああああ
あああああああ

「さ、最期に。」

「愛してる。」

「わたしもっ・・・。ひっく・・・わたしも愛してる。あいしてるあいしてるあいしてるあいしてる！！！」

彼女を思いっきり抱きしめる。

お別れだ。

・・・

だんだんと彼女の泣き声が遠のいていく。

もう・・・意識が。

たぶん、彼女は幸せに暮らすだろう。
温かくやさしい風に包まれて。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1918n/>

温かい風に包まれて

2010年11月8日08時45分発行